

乾癬患者の重症度や患者属性が QOL に及ぼす影響

乾癬特異的 QOL 尺度および包括的健康関連 QOL 尺度を用いた検討

ヒラベ マサキ* ハセガワトモノリ フジシロユミコ
 平部 正樹* 長谷川友紀* 藤城有美子^{2*}
 キガワ ミカ フクチ オサム ナカガワ ヒデミ^{3*}
 城川 美佳* 福地 修^{3*} 中川 秀己^{3*}

目的 乾癬特異的 QOL 尺度と包括的健康関連 QOL 尺度を用いて、属性や病状が乾癬患者の QOL に与える影響を明らかにした。

方法 対象は東京慈恵会医科大学 4 病院の皮膚科外来で乾癬と診断された患者 228 人である。調査期間は 2005 年 5 月から 2006 年 1 月である。医師記入用調査票は、対象者の属性、合併症および生活習慣、罹病期間、皮疹面積、身体各部位における皮疹範囲、乾癬の総括的重症度を示す Psoriasis Area and Severity Index (PASI) スコアなどからなる。また患者記入用調査票は、自己評価による皮疹面積、自己評価を加味した総括的重症度を示す Self-PASI スコアに加え、乾癬特異的 QOL 尺度として Psoriasis Disability Index (PDI) 日本語版、包括的健康関連 QOL 尺度として Short Form 36 (SF-36) から構成される。

結果 調査票は 216 人から回収され、PDI および SF-36 の過半数の項目について回答を得た 200 人を有効回答とした。PDI では、日常生活、仕事・学業の領域で、また、SF-36 では、全体的健康感以外のいずれの領域においても男性より女性で QOL が低かった。QOL に関連する要因について男女別に重回帰分析を行ったところ、PDI については男性では現年齢、PASI および Self-PASI が関連していたが、PASI の関連がより強かった。女性では PASI と Self-PASI が関連していたが、Self-PASI との関連がより強かった。SF-36 については、男性では PASI と Self-PASI がともに関連していたが、女性では Self-PASI のみが関連していた。PDI と SF-36 の比較では、PDI で重症度との関連がより強かった。女性においては、Self-PASI のほうが PASI よりも QOL との関連が強く、QOL を考慮した治療においては症状の自己評価を加味した Self-PASI がより有用であることが示唆された。

結論 乾癬患者の QOL の維持・向上のためには、その重症度や、年齢・性別といった背景要因を検討することが重要であることが明らかとなった。また、乾癬患者の治療・状態把握に、Self-PASI や PDI の利用が推奨されることが示された。

Key words : 乾癬, Psoriasis Disability Index, Short Form 36, Self-administered Psoriasis Area and Severity Index, Quality of Life

* 東邦大学医学部社会医学講座

^{2*} 人間総合科学大学人間科学部

^{3*} 東京慈恵会医科大学皮膚科学講座

連絡先：〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16
 東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学分
 野 平部正樹